

インターバンクの声（2015年11月20日）

債券市場や株式市場では、相場の先行き判断に対して「ジンクス」や「アノマリー」を気にする人も多いようだ。為替市場でも、特定のアナリストやストラテジスト、あるいは金融機関が真しやかな予想、相場観、そして推奨などを言い出し始めると、仮にわれわれが事前に同じ判断や予想をしていたとしても、これは「ちょっと気をつけたほうがいいぞ」ということがある。何もこれは特定の人物や金融機関を好き嫌いで対象にしているわけではなく、こうした人物や金融機関の過去2、3年間の言動、予想、推奨が余りにも外れていたり、判断のロジックそのものが的外れであったり、対象の金融機関の投資行動が推奨とは全く違っていることが聞こえて来るような場合だ。そうした評判が積み重なって疑念を持つようになっていくところへ、突如、今までの彼らの予想や相場観を覆してこちらと同じ意見になってしまうと、「ちょっと待てよ」と感じて慎重になるのだ。足許の為替相場予想は概ねドル買い、ユーロ売り、円売りだ。ところが、つい最近まで円買い、ユーロ買いのはずだと言っていた人もとうとう円売り、ユーロ売り予想に同調して来た。さすがに今回は宗旨替えをする気はないが、あまり気分はよくない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。